

7. 臨床研究

- 59-0. 重症 COVID-19 に合併する VAP と看護師の行う VAP バンドルアプローチの関連性に関する一考察
坂本 紫織（東京ベイ・浦安市川医療センター 診療看護師(NP)）
- 60-P. 整形外科領域におけるレニン-アンジオテンシン系降圧薬の術前内服と周術期血圧の分析
田草川 明子（筑波記念病院 診療看護師(NP)）
- 61-P. 慢性期病床に入院中の後期高齢者の栄養評価における課題
中村 厚子（市立大町総合病院 診療看護師(NP)）
- 62-0. 診療看護師（NP）が介入した急性 Stanford A 型大動脈解離の周術期成績
齋藤 真人（医療法人社団 栄悠会 綾瀬循環器病院 心臓血管外科 診療看護師(NP)）

8. 教育（卒後臨床研修・大学院教育など）

- 63-0. 診療看護師（NP）の臨床実践における「Hospital Medicine」の勧め
永谷 創石（練馬光が丘病院 診療看護師(NP)）
- 64-0. 秋田県内の診療看護師（NP）に関する理解と展望
利 緑（秋田大学大学院医学系研究科）
- 65-P. 診療看護師（NP）が実践する訪問看護研修会の効果と課題を考察する
津塩 昌子（ふちゅう訪問看護ステーション 診療看護師(NP)）
- 66-P. 看取りのための法医学－溢血点観察のシミュレーション－
五十嵐 真里（国際医療福祉大学大学院 特定行為看護師養成分野）
- 67-0. コロナ禍におけるオンライン授業の学修効果と学生の授業評価の検討－対面授業との比較から
泉 雅之（愛知医科大学大学院看護学研究科 臨床実践看護学）
- 68-0. 診療看護師（NP）卒後臨床研修における診療看護師(NP)到達目標・評価表の有用性の検討
高林 拓也（愛知医科大学病院 診療看護師(NP)）
- 69-0. 日本における診療看護師（NP）卒後臨床研修の現状と課題に関する研究
當山 護剛（聖マリアンナ医科大学病院 心臓血管外科 診療看護師(NP)）
- 70-P. 心臓血管外科における診療看護師（NP）養成大学院の臨床実習の現状と課題
永谷 ますみ（藤田医科大学病院 中央診療部 FNP 室 診療看護師(NP)）

9. 職場環境調整・システム構築

- 71-0. 当院における退院支援システム構築に向けた診療看護師（NP）の取り組み
原 光明（特定医療法人 社団春日会 黒木記念病院 診療看護師(NP)）
- 72-0. 二次救急外来における包括的指示書作成の取り組み
山口 壽美枝（大阪医療センターチーム医療推進室 診療看護師(NP)）
- 73-P. 診療看護師（NP）の職務満足・不満の理由
鈴木 美穂（聖路加国際大学）
- 74-P. 国際医療福祉大学成田病院救急科における診療看護師（NP）業務の実践報告および今後の目標
千葉 美幸（国際医療福祉大学成田病院 診療看護師(NP)）

- 75-P. 急性期病院に勤務する看護師の呼吸数測定の実施に影響を及ぼす個人・組織要因
高橋 幸大 (JA 長野厚生連 長野松代総合病院 診療看護師 (NP))
- 76-P. 国立病院機構・国立高度専門医療研究センターに在籍する診療看護師 (NP) の 卒後教育と業務実態調査
田村 浩美 (独立行政法人国立病院機構東京医療センター 診療看護師 (NP))
- 77-0. 診療看護師 (NP) の職場環境と実践内容の実態調査
高敷 倫子 (秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程 学生)

10. 特定行為

- 78-0. 末梢挿入型中心静脈カテーテルの先端が後に内頸静脈内に迷入していた 2 症例の報告
神崎 愛実 (藤田医科大学病院 中央診療部 FNP 室 診療看護師 (NP))
- 79-P. 看護師特定行為研修の研修施設開講に伴う準備 - 看護師特定行為指導者講習会で見えた課題 -
竹田 明希子 (独立行政法人国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター 診療看護師 (NP))
- 80-0. 末梢挿入型中心静脈カテーテル管理チームの運営から考える特定行為研修修了者と診療看護師 (NP) の協働
横山 朗也 (戸塚共立第 1 病院 診療看護師 (NP))
- 81-0. 下肢静脈の末梢挿入型中心静脈カテーテル留置法における有効性の検討
坂下 健明 (東京曳舟病院 診療看護師 (NP))
- 82-P. 上大静脈閉塞患者への大腿部ポート留置を行った 1 例 - エコー穿刺技術の応用 -
伏見 直記 (市立川西病院 診療部 診療看護師 (NP))
- 83-P. 小児科医と協働し診療看護師 (NP) が 1 歳患児に末梢挿入式中心静脈カテーテル (PICC) を挿入した症例
山添世津子 (大同病院 診療看護師 (NP))

11. その他

- 84-P. 診療看護師 (NP) の倫理的感受性と体験する倫理的問題の実態調査
西尾 光貴 (東京曳舟病院 診療看護師 (NP))
- 85-P. 患者満足度調査から見える診療看護師 (NP) の患者満足度向上に関する検討
吹田 耕治 (東京ベイ浦安市川医療センター 診療看護師 (NP))
- 86-P. 診療看護師 (NP) のコンピテンシーに係る実践報告に関する文献検討
黒澤昌洋 (愛知医科大学看護学部 診療看護師 (NP))
- 87-P. 診療看護師 (NP) のキャリア：制度発足から 10 年後
原田奈穂子 (宮崎大学)
- 88-P. 診療看護師 (NP) における超音波検査の教育機会と臨床における使用頻度に関する調査
斎藤 優馬 (藤田医科大学大学院 学生)
- 89-P. 放射線科所属診療看護師 (NP) の活動の実際と展望
西田 安紀子 (医療法人徳洲会 札幌東徳洲会病院 診療看護師 (NP))

90-0. 診療看護師（NP）が活躍できる新たな診療科開拓への取り組み

石原 夕子（NH0 九州医療センター 診療看護師（NP））

91-P. A 病院における小児への末梢留置型中心静脈注射用カテーテル挿入と管理上の課題

大石 直之（大分県立看護科学大学大学院実践者養成小児 NP コース 学生）

92-0. NICU/GCU を管理する診療部長と看護師長の診療看護師（NP）と特定行為に関する認識

古家 景子（国立病院機構小倉医療センター 診療看護師（NP））

93-0. 自己決定困難な末期認知症患者の共同意思決定に診療看護師（NP）が関わった一例

向井 拓也（愛仁会高槻病院 診療看護師（NP））

94-P. 診療看護師（NP）による術前肺エコーでの肺癒着の確認方法と成績

小中野 和也（医療法人澄心会名古屋ハートセンター 診療看護師（NP））

ご祝辞

第7回日本 NP 学会学術集会 祝辞

福永 ヒトミ

主催：日本 NP 学会 理事長



第7回日本 NP 学会学術集会が長崎で開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。
昨年より、鋭意準備されたにも関わらず、新型コロナウイルス感染を配慮し、開催方法をハイブリットから Web 開催のみへ変更せざるを得なかったことは、苦渋の判断だったと想像致します。

とはいえ本学術集会は、診療看護師 (NP) の未来につながるための「Collaboration」—6 団体の学会、医療機関、行政、介護・福祉、学校関係等、様々な方々との Collaboration が出来る機会であり、会員並びに参加者の皆様とも大変楽しみにしていられることでしょう。

団塊の世代が 75 歳を迎え、5 人に 1 人が後期高齢者 (75 歳以上) という「超・高齢社会」に突入する 2025 年、たとえ重度の要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援ができる「地域包括ケアシステム」の推進が図られています。高齢者の「超」高齢化に伴い、社会が大きく変化する中、看護職に求められる役割も変化しています。

急性期疾患を診る場では、チーム医療の推進により緊急・周手術期において救命や早期回復を図ること、効果的/効率的な症状マネジメントをタイムリーに実践することが望まれます。そのため急性期だけでなく回復期・慢性期病床や暮らしの場につなぐ役割も一層重要となってきます。

更に、タスク・シフティングの推進に向け、看護師の自律的な医療介入の提供が必要になっています。チーム医療・ケアのキーパーソンとして、あるいは地域医療のゲートキーパーとしての役割は、大変大きいと考えます。しかしながら、診療看護師 (NP) の社会的認知度は十分とは言えず、さらなる活動成果の蓄積が必要です。

学術集会では、このような社会状況に如何に対応していくか、病院・診療所・介護老人保健施設・訪問看護ステーション・大学等の教育機関という様々な就労現場からの声を聴かせていただけることを楽しみにしております。

第7回日本NP学会学術集会 祝辞

江崎 宏典

共催：国立病院機構 長崎医療センター 院長



第7回日本NP学会学術集会が長崎の地で開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。本学術集会は本田和也会長と長崎医療センターの診療看護師（NP）をはじめとする多くの皆さんの“Collaboration”により作られています。多くの魅力的な講演やシンポジウムとともに斬新な企画にあふれた素晴らしい大会を手作りで開催されたことに心より敬意を表します。

本学術集会はホームページにあるように診療看護師（NP）だけではなく、医療、看護、介護、行政、教育など多くの職種に携わる方々に広く参加を呼びかけて開催されます。これは多くの職種の方々との出会いが“Collaboration”となり、診療看護師（NP）という比較的新しい専門職に新たな役割、価値を創り出すことにつながるという本田会長の思いが表れているものと思います。

今回のテーマである“Collaboration”は現在の医療のキーワードであり、この先2040年に向けての医療・看護・介護提供体制にとっても不可欠なものです。それぞれの分野の実践者たちによる発表や討論が参加者の皆様にとっても大きな気づきや参考となり、明日からの活動に活かせるもの期待しています。

ただ残念ことは新型コロナウイルス感染症のために現地開催を諦めざるを得なかったことです。関係者にとっては大変つらい決断だったとは思いますが、WEBならではの良さも生かして、実り多い大会になるものと信じています。

第7回日本NP学会学術集会の開催に尽力された本田会長並びに関係の皆様に対して心より感謝を申し上げて、私のお祝いの言葉といたします。

第7回日本 NP 学会学術集会 祝辞

西山 ゆかり

共催：国立病院機構 長崎医療センター 看護部長



第7回日本 NP 学会学術集会の開催に際しまして、一言ご挨拶申し上げます。ここ長崎の地で開催され、本田和也診療看護師（NP）が会長をつとめますことを大変光栄に存じます。当院には4名の診療看護師（NP）が活躍していますが、多職種とコラボレーションしながら、実践者としての能力を最大限発揮し、地域医療に貢献しています。私達も大いに刺激を得ている毎日です。

参加していただく、診療看護師（NP）の皆様におかれましては、自らがこれまで培ってきた価値（役割）等を振り返るきっかけにさせていただき、さらには今後進んでいく道を考えられる“自立性”を育むきっかけになればとの思いが込められています。また、研究者、教育者、管理者の皆様におかれましては、日本における診療看護師（NP）の質の向上にご尽力いただき、深く敬意を表する次第です。

本学術集会のテーマは、Collaboration（コラボレーション：協同・協働）ですが、参集いただいた皆様が活発な議論を提起し、診療看護師（NP）の価値や能力を改めて問い、未来に向けて新しい価値を創造していく、彼らの熱い思いが注がれています。本会を契機にさらに交流を深め、診療看護師（NP）の発展に一層ご尽力いただければと思います。

結びに、本学術大会の成功と参加の皆様方の今後益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

第7回日本NP学会学術集会 祝辞

寺原 朋裕

後援：長崎県 長崎県福祉保健部長



「第7回日本NP学会学術集会」が、ここ長崎県におきまして盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

また、本学術集会が、看護に関する高度な思考力・判断力及び実践力を備える自律した看護師の育成を目指し、長年にわたる教育・実践・研究活動を通じて、我が国の医療・看護の発展に大きく寄与してこられたことに対し、深く敬意を表しますとともに感謝を申し上げます。

さらに、関係者皆様方のご努力により、平成26年に「特定行為に係る看護師の研修制度」が法制化され、在宅医療・チーム医療の推進にその役割が大きく期待されることとなりました。今後2040年を見据えた医療提供体制の整備に向けて、会員の方々をはじめ、ご参加の皆様方には、本学術集会において議論や交流を深められますとともに、引き続き、安心・安全な医療・看護の提供にご尽力いただきますようお願いいたします。

結びに、本学術集会が、皆様にとって実り多きものになることと、ご列席の皆様方の今後益々のご活躍を心から祈念し、お祝いのごあいさついたします。

第7回日本NP学会学術集会 祝辞

米倉 正大

後援：長崎県病院企業団 企業長



第7回日本NP学会学術集会の長崎での開催、おめでとうございます。コロナ禍の折、現地での集合発表は困難な状況で、Web会議の開催となりました。皆さんに長崎を訪れて、楽しんでいただく機会を無くしてしまったのは残念でした。思い起こすと、Nurse Practitionerは40年前、私が米国ロマリンド大学脳神経外科にいる時、その存在に気づきましたが、日本で本格的にNPに関わったのは、2010年11月第64回国立病院総合医学会を福岡で開催した時でした。山西文子先生（現：東京医療保健大学東が丘看護学部看護学科 副学長・看護学部長 看護学研究科高度実践学コース担当教授）の提案で、米国でNPとして活躍されているエクランド・源 稚子女史（Dr. Wakako M. Eklund DNP NNP-BC）に特別講演をしていただいたことがきっかけでした。その後、国立病院機構での診療看護師（NP）の育成が始まったと記憶しています。会長の本田和也氏は、長崎医療センターで一期生として診療看護師（NP）の実績を積みながら、長崎および九州の診療看護師（NP）研究会の立ち上げに尽力し、この度、第7回日本NP学術会議の会長として活躍されています。日本での本格的な診療看護師（NP）の活躍には、まだいくつかのハードルがありますが、この学術会が貢献してくれることを願っています。また、長崎県病院企業団としましては、診療看護師（NP）育成のために、奨学資金の援助など積極的な応援体制をしており、将来的には長崎県の離島の全病院で診療看護師（NP）が活躍してくれることを期待しています。